

コミュニティ 人々

私と人とまちの間に

2018.JUN
117号

6

編集発行
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

Myチャレ まちチャレ

- 2 伝統の美と笑顔を写そう。
- 4 マジックで、笑いと驚きと感動を
- 6 いたいいたい、とんでいけ。～クスリの話でボランティア～
- 8 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～
まち暦 夏
- 9 より道こ道 「若草 りょうぶの道」
- 10 事業団からのお知らせ
- 11 見つけてスッキリ!／草津の匠
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第29回 一日何歩?
ボイス

はい、あげる

「はい、ママ。これあげる」。きみが雨の日に見つけたものは、なんだったのかな。大人になっても、覚えてくれてたらいいな。この日のこと、きっとママは忘れないよ。雨があがったら、青い青い夏がやってきます。

そろそろ梅の実が黄色くなる頃。青い実はジュースや梅酒に。黄色くなったものは梅干しに。完熟するとジャムにと、食用や薬としても古代より生活に欠かせない梅。旧暦六月十六日に採った梅を「嘉祥の梅」といい、これで梅干しをつくり、旅立ちの日に食べると難を逃れるといわれます。

2018.JUN
117号

6

何歳になっても「チャレンジ」はあなたをワクワクドキドキさせてくれます。自分のために、そしてまちのために何かを始めるあなたは、素敵です。

今回はそんなチャレンジを紹介します。きっとあなたも、何かを始めたくてウズウズしてきます。



あきらめる人、見守る人

日本の伝統美、着物。着る機会が減ったとは言え、七五三、卒業式、成人式、結婚式…と節目節目には日本人の晴れの日を祝ってきました。着る人の気持ちを晴れやかにし、日本人としての喜びと誇りを感じさせてくれます。

でも、この「着物を着る喜び」を障がいがあることであきらめてしまう人もいます。その心残りを見守ることしかできない家族がいます。「障がいのある人にも着物を着る楽しさを味わって、笑顔になってもらいたい」そんな思いがこの撮影会につながりました。企画したのは市民ボランティア団体spring。代表の花岡さんがスタッフとして関わった枚方での企画を、ここ草津で仲間を集い実現しました。

撮影会当日。着物やドレスを身にまとったのは足が不自由な

伝統の美と笑顔を写そう。

spring

花岡由縁さん(東矢倉・54歳)

ゴールデンウィーク。たくさんの人で賑わう「草津川跡地公園de愛ひろば」の一角に、着物やドレスを身にまとう女性たちの姿。カメラマンがその艶やかな姿にシャッターを切り、撮影の合間にはメイクさんや着付け師さんが装いを整えます。今日のモデルはすべて障がい者さんです。

人など障がいがある12人の女性たち。花岡さんの声かけで、市内外から着付け師、メイクさん、ケアマネージャーなど、企画に賛同した15人のスタッフが集まりました。ただでさえ着るのが大変な着物。じつと立っているのが難しい障がい者には、体を支えながら複数の着付け師で素早く着付けていきます。

夢は叶う

着付けを終え、ヘアセットとメイクが整った人から順番に写真を撮ります。撮影はプロカメラマンの樺井良祐さん。風が強かったり、雨が落ちてきたりとあいにくの天気の中、ワンカットごとに指示を出します。初めての経験に緊張する面々も、その優しい口調にリラックス。笑顔を引き出す術はさすがです。

樺井さんによる撮影が終わると、それぞれ自分のスマホでも記

念撮影。普段と違う、いや初めてみる娘の姿を一生懸命にカメラに収めるご家族の表情にも目が留まります。その思いの丈を推し量ることはできませんが、感無量とはこういうことを言うのでしよう。



「着物がまぶしいぐらい、キラキラ輝いていた」「夢がかなった」「写真を毎日、作業所に持って行っています」「SNSの写真をこれに替えました」参加者の感想にも心を打たれます。

花岡さんは言います。「今まであきらめていた着物を着ることで、たとえ障がいがあっても色々なことに挑戦する気持ちになってもらいたい。本人の笑顔が家族、そして周囲の人の笑顔へとつながるものと信じています。ここから、草津のまち全体が、障がい者への理解を深められたらいいなと思います。」

知り尽くした人の知恵

「障がいのある人にも着物を楽しんでもらう」この企画、裏では大変な準備や苦勞があります。たとえば車イスの女性には上下に分かれる着物を用意しました。上半身は袖を通して羽織り、

下半身は足からはきます。

そんな大変な裏方作業をしたスタッフの中には80代の女性も3人います。「3人にずいぶん助けられました。障がいがある人が着やすいように着物を裁断したり、縫い直したり、足りない小物を作ってくれたり…。着物を知り尽くした人ならではのアイディアと工夫があつてこそ、実現できた企画です」と花岡さん。

本人から引き出す

チャレンジ精神旺盛で、出会う人、出会う人を笑顔にしている花岡さん、その原点には辛い経験があります。昔から仕事大好き人間。起業し、バリバリと仕事をこなす最も乗っていた時期に、がんが見つかり余命まで宣告されました。そしてリーマンショック。会社の存続についても悩む日々。時を前後して、うつ病となった親戚を預かっていたこともあり、自身も同じように何事もマイナス思考に陥ったとか。「こんな時は焦ってはいけない。きつと這い出せるところがあるはず」と通信制の大学で福祉を学びました。

「福祉に触れたことが、私には大きかったですね。思い悩む人を

引っ張り上げようとするのではなく、本人が望んでいることを引き出す。時には本人すら気づいていないことさえあります。そんな眠っている力を寄り添いながら引き出すと、実はすごいパワーになるんです。これって年齢や障がいの有無なんて関係なく、誰もがそんなパワーを秘めているんですね。」

団体名の「spring」は春だけでなく、「泉」という意味もあるとか。「泉」って、水を求めて人が集まってくるよな。私たちの活動がそんな存在になれたらいいな、って思ってた名付けました。」

8月11日にはアミカホールで浴衣体験の催しを企画しているとか。花岡さんとspringのチャレンジは、たくさんさんの笑顔が集まってきます。泉のように。



カメラマン
樺井良祐さん

spring
ゆかり
花岡由縁さん

FEATURE

マジックで、笑いと驚きと感動を

草津迷術会 寺崎罔男さん(笠山・76歳)



「マジック界の杉良太郎です」

愛嬌のある人柄と温かい山形のお国ことばで、見る人を不思議の世界に引き込むのはマジックサークル「草津迷術会」の寺崎さん。

趣味のマジックで多くの人に、笑い・驚き・感動を届ける草津のマジシャンです。さあ、ハトが出ますよ～。いや、出ませんよ～。

▼イメージ

生涯楽しめる
趣味と出会う

「山形なまり、今ではメリット
 になっていると思ってます。特に
 高齢者には、味がある。つて親し
 みをもってもらってね。標準語や
 関西弁でマジックすると、かえっ
 て硬くなっちゃう。」

就職で滋賀に来た寺崎さん、
 こちらでの暮らしの方がずいぶ
 んと長くなりましたが、今でも
 山形なまりの温かい語りが魅力
 の一つ。子どものころから人を笑
 わせるのが大好きなひょうきん
 者、職場での飲み会などでは宴会
 部長といわれていたというから、
 根っからのエンターテイナーかと
 思いきや、実はマジックを趣味に
 持つまでは人前で話すのは苦手
 だったというから驚きです。

そんな寺崎さんとマジックの

出会いは意外と最近の
 こと。定年後に勤務し
 ていた栗東市の公民館
 で開かれたマジック講
 座でした。「何もない
 ところからモノが出
 てくる」「切ったはず
 が切れてない」「1
 個が3個に増え
 る」「目の前で起こ
 る不思議の数々」
 「これは自分に
 合ってる。やって
 みたい」。人前
 で話すことは苦
 手でも、人を喜ばせることが大好
 きという寺崎さんの心を掴んだ
 瞬間でした。こうして受講者が
 集まり、マジックサークル「迷術
 会」が誕生しました。



◀イメージ

草津迷術会
寺崎罔男さんひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします

くらしサポートセンターしが草津

くらし何でも相談

TEL:077-564-5512

住所：草津市大路1丁目1-1 1F 932 4F 406

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522



株式会社 三井田商事

JR南草津駅前に2012年に移転しましておかげ様で6年が経過しまし
 た。この度、4月1日付で南草津2丁目に新社屋を構えることができました。
 これも一重に地域の皆様に支えられて事業展開できた結果だと考えてお
 ります。

今後も日々精進して皆様から愛される企業として努めて参ります。

弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンス
 をしております。又、水の宅配事業も展開しております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津2丁目7-16

TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

もう、それは快感

「マジックで出会い・触れ合い・笑い合い」がモットーの草津迷術会。高齢者サロン、老人会、子ども会、文化祭など、地域行事を中心に年間50回ものステージで笑いと驚きを提供します。

「マジックはコミュニケーションなので人柄が出ます。同じマジックでも、やる人によって違うように見える。手順通りにしているだけでは面白みに欠けるし、驚いてはくれても感動を与えることはできないと思っています」と寺崎さん。

そんな寺崎さんのマジックは徹底して「観る人をもてなす」姿勢。100を超すという技の中でも高齢者相手なら細かなマジックはできるだけ避け、後ろの席の人でも見える大きなカードを使います。

もう一つ大切にしているのが演者と観客をつくる会場の一体感。観客の中に硬い表情の人を見つけると、ロープを引っ張ってもらったり、カードを選んでもらったり

と参加してもらいます。参加することで徐々に表情がほぐれていくとか。いつの間にか初対面の人同士が肩をたたき合って笑っています。

7年間続けている、とある保育園へのクリスマス訪問ではサンタさんに扮してマジックを披露します。毎回、目をキラキラさせて笑ってくれる園児たちの姿が演者に元気をくれます。「大人であれ、子どもであれ、場が盛り上がって皆が喜んでくれると、こちらも調子にのってきますよ。もう、それは快感です。」

仲間がいる やることがある

お客さんとの出会いだけでなく、メンバーとのコミュニケーションも寺崎さんの元気の素。月2回、メンバーで集まり練習とおしゃべりに花が咲きます。

「ここはまさしく自分の居場所ですね。毎回、仲間に出会うのが楽しみです。仲間がいて、やることがある。本当に幸せですね。だって、あのときにマジックをやったなかったら、今ごろ行くところになかったかもしれません。」

匠の技 何してるとこ?



答えはP11

マジックは万国共通のコミュニケーション。取材中も、折に触れマジックを見せてくれる寺崎さん。その人柄と温かいお国ことば、そして驚きと感動のマジックでその場の空気も温かくしてくれました。ハトは出てきませんでしたが、出会うすべての人を温かく包み込んでくれるこの空気こそ、寺崎マジックの神髄なのかもしれません。

寺崎さんと草津迷術会は、今日もどこかで「不思議」と「笑顔の時間」を届けています。

スマイ印刷は、
自然環境を守る地球に優しい
製品づくり「エコ印刷」に
取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com

本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

読売新聞

街の安心、安全、
教育、環境を
応援していきます。

草津五店会 TEL 077-568-2146

FEATURE

いたいのいたいの、とんでいけ。くすりの話でボランティア

薬剤師 松本公平さん(平井・70歳)

「使用上の注意をよく読み、用法・用量を守って正しくお使い下さい。」
 そうです、くすりの注意書きです。CMにもなりませんでした。処方薬なら薬局でも使用方法を説明してくれます。マジメなあなたのことだから、きつと守ってくれてますよね。では、どうしてそんな「使用上の注意」があるのか知っていますか？身近なくすりのことでも、意外と知らないことも多いもの。
 薬剤師の松本さんは、そんなくすりの「？」を「！」に変える活動を定年後のライフワークにしています。

くすりをお茶で
飲んでもいい？

ジェネリックって
効きが悪いの？

食間っていつのこと？

イメージ▲▲



魔法のくすり

魅せられたとか。

次の人生の準備

人懐っこい笑顔が印象的な松本さんは現在70歳。現役時代は製薬会社に勤めていました。昔から疑問に思っていたことは突き詰めないと気が済まなかったという松本さん。子どものころ、「電車の中の蚊は、どうして電車と同じ速度で移動できるのか？」と疑問に思ったこともあったとか。

そんな松本さんの眼が初めてくすりに向けられたのは小学生のとき。授業中、急激な腹痛に襲われた松本少年。尿道結石で即入院でした。そこで服用したくすりで痛みは2〜3日で治まりました。あれほど自分を苦しめた痛みを、魔法のように取り除いてくれたくすりの不思議に

理科好き、化学好きの少年は大人になり製薬会社に入ります。「今はすぐに成果を求められる厳しい時代ですが、当時の製薬会社は自由なもので、納得いくまで研究に没頭できました。お給料をいただきながら好きな研究ができる。幸せな時代でしたね」。やがて家庭をもち、充実した環境でバリバリ仕事に打ち込んだ松本さんですが、定年前の数年间は第一線を退き、時間に余裕のある部署に配属となりました。

常に前向きな松本さん。余裕のできたこの時間を使って、今一度、くすりの勉強を始めます。実は大学時代に薬剤師の資格をとっていたものの、仕事に活かす

機会には恵まれなかったのです。社内にある医薬の文献や雑誌を片っ端から読み、研修にも必ず参加します。若い人たちへの指導をしながら、自身もくすりの知識を蓄える時間になりました。「退職後の人生を充実させてくれる貴重な準備期間となりました」と振り返ります。

当たり前前じゃなかった

退職後、松本さんは薬剤師の資格を活かし、調剤薬局で第二の人生をスタート。製薬会社とは違い、薬局では直接、患者さんと顔を合わせます。「食前って何分ぐらい前がいいの？」「朝昼晩の服用だけど、子どもは昼間保育園なので…」こんな素朴な疑

薬剤師 松本公平さん

問や不安の相談にのるようになりしました。

「意外でした」と松本さん。「自分では当たり前だと思っていたクスリのことを知らない人がこんなにいるとは。薬剤師として自分にできることがあるのではないのか…」

さつそく、市の学習ボランティア「ゆうゆうびとバンク」に登録し、地域のまちづくりセンターなどで高齢者や若いお母さんなどにクスリの話をするボランティアを始めました。

小学校では「薬剤師」の仕事についても話します。「子どもたちには、みんなの健康を守る仕事」って説明しています。人の健康を守るのはお医者さんだけじゃないよ。ってね。将来は薬剤師になりたいって子がいたのは嬉しかったですね」

自分のため、誰かのため

新たな一歩を踏み出した松本さん。薬局の仕事の傍ら、今は「クスリの話」の資料づくりに追われます。

「どうまとめたら上手く伝わるのか、わかりやすいのか。話の道筋や資料を考えるのも、また楽しい」。この資料

づくりは薬局の仕事に活かすこともでき、「学び」と「実践」の両方がうまく回っています。

最後にこれから第二の人生を迎える皆さんに松本さんからアドバイスをもらいました。「退職しても、自分のしたいこと、すべきことって、なかなか見つからないもの。定年前から『自分のため、人のためにできること』を考え、準備しておくことをおススメします。一歩を踏み出すには勇気がいるかもしれませんが、その一歩はきつと新しい世界へと視野を広げてくれますよ」。

松本さんの生き方も『これから』のヒントにしたいものです。さあ、人生はまだまだ。ポジティブにいきましょう。

おだいじに。

イメージ▲

あなたの一歩、応援します。

ご紹介した3つのチャレンジ。共通点はどれもまちに活かされていること。そう、まちにはあなたの一歩を応援したり、あなたをまちや人とつないでくれる機関や制度、プログラムがたくさんあります。

何か始めたい

■草津市ボランティアセンター

何かボランティアを始めたい人はぜひ。

青地町1086(草津市社会福祉協議会内)

T 562-0084

HP <http://kusa-shakyo.or.jp/home>



■滋賀県レイカディア大学

60歳以上のシニアが学ぶ大学。たくさんの仲間ができることにも定評。

笠山7-8-138(県立長寿社会福祉センター内)

T 567-3901

HP <http://www.shigashakyo.jp>



■放送大学

ご存じ、放送大学。テレビやラジオ、インターネットを通じて好きな時間に学習できる通信制大学。

HP <https://www.ouj.ac.jp>



まちに活かしたい

■(公財)草津市コミュニティ事業団

あなたを市内のNPOや地域におつなぎします。

西大路町9-6(市立まちづくりセンター内)

T 565-0477

HP <http://kusatsu-spp.net>



■草津市ゆうゆうびとバンク

市の学習ボランティア登録制度。

草津市役所(草津市生涯学習課)

T 561-2427



■地域まちづくりセンター

自分の特技、経験、関心をぜひ地元で活かしたい。

お近くの地域まちづくりセンター

HP <http://kusatsu.or.jp/machikyou/>



■立命館びわこ講座

身近な近江・草津の豊かな文化・財産・歴史。

立命館大学びわこ・くさつキャンパス(地域連携課)

T 561-5918

HP <http://www.ritsumei.ac.jp/>



■龍谷大学の公開講座「RECコミュニティカレッジ」

市民向け生涯学習講座。年間約400講座開設。

龍谷大学

HP <https://rec.ryukoku.ac.jp/>



くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。
どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り上げられる
今ドキご近所のちょっとこなれた毎日。
楽しくも少し考えてしまう。
もしかして…これって、みんなの問題かも。



立ちあがります

パソコンやICTはずいぶん身近なものになりましたね。今では笑い話のようですが、パソコンやインターネットを一躍普及させたWindows95*が販売されてからの暫くは、この手の話はホントにあったそうです。

さて、「ご近所・町内」という視点でこの話を見ると、いくつかポイントがありそうです。1つ目は町内会の仕事にも今やパソコンが不可欠になったということ。回覧板やお知らせの文書をつくったり、名簿や参加状況を表にしたり、メールで連絡をとりあったりと、まちの仕事もパソコンを使わないと不便な時代になりました。前任者からの引継ぎもパソコンデータが主流です。パソコンに不慣れな人なら、かなり負担感があるかもしれません。

2つ目は、そんな不慣れな人に対して得意な人が教えていること。もちろんパソコン教室に通えばいいのかもしれませんが、まちの仕事をするのに、自分のお金を払うってことに違和感を覚える人もいるかもしれませんし、何より顔見知りの人に教えてもらう方がリラックスして楽しく学ぶこともできるでしょう。ワイワイと、みんなで学び合うと会話も増えるというものです。

最後は、若い世代が登場すること。高齢化している町では、まちのことも高齢者中心になりがち。地元暮らし若い世代がこのようなきっかけから、まちのことに関わってもらえると、他にも色々期待できるし、世代間の交流もできそうですね。若い世代だって、きっかけさえあればまちのことに関わりたいって思っているものです。だって自分のまちですから。

これってやっぱり、みんなの問題。

* マイクロソフト社が1995年に出したオペレーティングシステム (OS) Microsoft®



さく・com-com / え・まんじゅう

まち暦



ふれあいタウンのまち暦



～とある町会長さんの「いいね、町内会!」～

今年の役員さんも徐々に慣れ、ペースが掴めてきたこの時期、町内会では大きな行事を迎えます。そう、夏まつり。まだ、みんな若く、子どももたくさんいたころは夕方から夜にかけて、盆踊りだ、カラオケ大会だ、と賑やかなものでした。ここ、ふれあいタウンも高齢化となり、今では自分たちでできる範囲に規模をこじんまりとし、時間も昼間だけにしています。どこか寂しさもあるし、夏場の暑さはこたえますが、誰もやめようとは思いません。やっぱり、みんな楽しみにしているんですね。

寂しいのは子どもの参加が減ること。ただでさえ子どもが減っているのに、最近では塾やクラブで子どもも忙しそう。ふれあいタウンでは「外孫さん」といって、帰省してきたお孫さんなんかも参加できるようにしています。毎年、県外から来てくれる外孫さんもいますよ。ここで育ったお子さんが、親になって来てくれるでしょ。思わず「おっ、〇〇ちゃんか?」って昔のまんま呼びかけると、向こうも覚えていてくれてね。嬉しいですよ。こんな懐かしい出会いができるのも、年に一回、この日ぐらいなものですよ。

町内会 まち暦

- 7月** 夏休みお楽しみ会 (子ども会) のサポート
- 8月** 夏まつり
- 9月** 敬老会・ごみ袋引換券の配布
- 他** 広報の配布・市役所との調整・関係機関への届出・集会所や備品の管理など



*このコーナーは市内のとある町内会長さんの話をもとに独自に編集しています。登場する町内や催しの名称などは実在のものとは異なります。また、すべての町内会・自治会に内容があてはまるものではありません。

より道 こ道

「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

第13回・若草 りようぶの道

石田はま子

「かがやき通り」を東へ、山手幹線を超えると真直ぐなケヤキ並木が続きます。新緑が青空に映え、気持ち爽快になります。ここは若草。今回は昭和60年頃から開発されたこの住宅地界隈を散策です。

志津南まちづくりセンター（旧市民センター）には芝桜、隣

接する若草中央児童公園にはパンジーやビオラ、シヤクナゲなど春が満開です。公園ではお母さんと遊ぶ女の子の姿に思わずニッコリ。年配の女性たちはグラウンドゴルフに興じていました。過ごしやすくなったこの季節を誰もが満喫しています。

若草では、50代の頃から何度か訪れた「りようぶの道」が私のお気に入り。牟礼山へと続く道筋には野鳥のさえずりが聴こえ、山頂からは遠く比叡山を望めます。そんな思い出に誘われ、今日も登り口へ向かいます。道すがら、閑静な住宅地の街並みに目を奪われます。若草では緑化率が15%以上に規定（地区協定）されているとか。そ

ういえば二戸ずつ石垣と生垣で囲われています。今の住宅地ではちよつと見られない景観です。

登り口を進む両側には桜が植えられ、若葉に活気を頂きました。4月には花見で賑わったことでしょう。サツキもちらほら咲き始め、視界を遮る高い建物も無いので周囲の山が見渡せます。草津にいながら、こんな伸びやかな景色が見られる若草って良いですね。

若草には他にも公園が東と西につずつあります。西公園は人影も少なく静か、東公園は保育所が近くにあるせいか多くの幼児が遊んでいます。近くを流れる伯母川には今もホタルが飛び交うとか。ホタル観察に訪ねたことも思い出しました。

若草は今、高齢化率が40%に近づきつつあると聞きました。若い人にもこの自然豊かなまちを感じて欲しい、そんな思いです。



おわび 前号(116号)の「より道こ道」に誤りがありました。「右 東海道いせ道」正しくは「左 東海道いせ道」です。おわびして訂正します。

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。

●1回1枠(名刺サイズ)5,000円

コミュニティくさつ

●約59,500部発行(年4回)

●市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

●申込み・問合せ ●(公財)草津市コミュニティ事業団 ☎565-0477



企業ネットワーク協同組合
Business Network Cooperative

空家・空店舗の無料相談受付中!



企業ネットワーク協同組合は不動産を通して地域密着で街づくりを行う非営利団体です。

介護職外国人技能実習生受け入れの監理団体です。人材についてのご相談は、当組合までどうぞ。

滋賀県草津市草津3丁目7-8

TEL/077-567-3454 FAX/077-563-3355

mail/mail@sg-kigyonet.com

ロクハ公園屋外プール オープン

夏休み



7月1日(日)～8月31日(金) 10:00～18:00

休場 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)

但し、7月21日(土)～8月31日(金)は無休

詳しくは

ロクハ公園HP <http://www.park-698.net>

T 564-3838 F 564-4152

ひとキラリ イキイキ活動賞 まち募集

地域の課題解決や魅力創出のための5年間を超える活動に「ありがとう」の気持ちを伝える「イキイキ活動賞」へのエントリーを募集します。

部門 「いいね!地元の力」部門、「なるほど!市民活動」部門

授賞数 2部門合わせて上限3団体

授賞内容 賞状および副賞5万円

締め切り 7月31日(火)必着

HP まちサボ <http://kusatsu-spp.net>

ノージーの ひらめき工房 SHOW!

©NHK

NHK、Eテレで話題の人気工作番組「ノージーのひらめき工房」がお届けするスペシャルショー。歌って踊って遊べる楽しいステージです。



9月2日(日) 1回目11:00/2回目14:00

会場 草津クレアホール

料金 全席指定2,000円

問合せ 草津アートセンター(草津クレアホール内)

T 561-6100

前回の答え たくさんのご応募ありがとうございました。



※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

草津市コミュニティ事業団ファンクラブ まち活 マッチの会 会員募集!

草津市コミュニティ事業団ファンクラブ「まち活マッチの会」の会員を募集しています。

色々なイベントに参加して、「まち活マッチ」と一緒に草津のまちを盛り上げましょう!



年会費 1,000円

特典 ミニトートバッグかストラップ & 各施設で受けられる様々な特典

受付 まちづくりセンター、ロクハ荘、ロクハ公園クレアホール、アミカホール

問合せ 企画総務課

T 565-0404 F 565-1221

HP community@kusatsu.or.jp

ファンクラブ
ホームページ



見つけろ ズギリ!

初夏の風物詩のひとつ「ホタル狩り」。かつてホタルは人の生活している身近な場所で生息していました。水辺の環境も変わりましたが、今でもホタルが見られる場所が草津にはたくさんあります。「草津でホタルを楽しむ会」では家族や地域でホタルを通してコミュニケーションを深めようと、観察会やイベントを開いています。

下のイラストには上のイラストとちがう部分が5か所あります。ちがう部分を答えてね。



イラスト：大村恵（編集ボランティア）

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号

③今号の感想を添えて下記まで。

FAX、メールでのご応募もお待ちしています。

※切 6月30日(土) 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号

(公財)草津市コミュニティ事業団

「コミュニティくさつ6月号」係

☐ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 562-9340

プレゼント

応募いただいた中からロクハブール親子ペアチケットとアイスクリームのセットを5名様にプレゼント。

草津の匠

第1回

刀鍛冶 田中貞豊さん（矢橋町・45歳）

真っ赤な鋼に小鋤を振りおろす
キーン、キーン。高い金属音と飛び散る火花。
一振り一振り、力強くも繊細に
初めて目の当たりにした「鉄は熱いうちに
打て」
ここは矢橋町の田中貞豊鍛刀場
田中貞豊さんは県内に数名しかいない刀
鍛冶師の一人。

この国の文化である日本刀をつくる刀鍛冶師



名工のもとでの5年以上の厳しい修行と
文化庁の試験があります。
ふるさと草津で工房を開いた田中さん。
草津の土と琵琶湖の水で
ここでしかできない刀をつくる
試行錯誤の日々が続きます。
鉄、火、土、そして水を知りつくした技に
思わず息をのみます。



写真：大條紘史（編集ボランティア）

田中貞豊鍛刀場 <http://www.mamorikatana.sakura.ne.jp/>



熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第29回

一日何歩？

熊谷栄三郎



定年退職から十八年余。年を取るほどに、分かってきたことがある。町で人の話を聞くのは、面白いということ。ごくごく普通の話ばかりなのだけど、加齢のおかげでそれが面白いと思えるようになったらしい。

この前、スーパーマーケットで、ショッピングカート十数台を二つにまとめて、さうそうと運んでいる従業員と話をした。七十歳前の人で、よその会社を退職してからここで働いているとのこと。

そのとき、この人が言ったのだ。「初めは足がぼんぼんにはれた。すくすく歩くから。でね、靴下の底に小さな穴が開いてたら、そこにマメが出来るのが分かったんですよ」

こんな話は本なんかには書かれてへんやろ、と愉快になった。よし、スーパーでカートの整理をしている高齢者に、いったい、どれだけ歩くのか聞いてまわろう、と決めた。万歩計つきのガラケーかスマホを持ってもらえるだろうから、答えはすぐ出るはず。草津はスーパーが多いという利点もある。実行

した。

それで分かってきた。カートの職場は、たいてい八時間勤務、実働は七時間。その職場でみなさん、毎日すくすく歩いている。

まず、店舗面積が広いスーパーの場合。たちどころに「店内だけで毎日、平均三万歩かな」の答え。中規模の店では「二万二千歩。プラスチック店外で八千歩」という人もあった。

一人に聞いていると、通りがかった仲間の従業員が参加してくれることがある。そして「肥満が治つたし、血圧も下がったね」など付け加えてくれるのだった。

『奥の細道』の旅で芭蕉は一日29キロ、日本地図作成のときの伊能忠敬は36キロほどだったかも、と読んだりしたことがある。でも現代のスーパーのカート運搬の人が毎日これだけ歩いているとは。話を面白がっていたら「あんたもくるか」と言われた。うーん、ちよつと、と口もつた。就職してしまつたら、こんな話をあちこち聞き歩くことが出来へんようになるさかい。

読者の声

たくさんのご意見
ありがとうございます。

3/15号「イマドキのマンション事情」に寄せられた感想から

- 転勤で草津に来て駅前のマンションを借りています。子どもさんが小さいと機械式駐車場に困っていることを初めて知り、お手伝いできることがあれば声をかけてみようと思いました。
- 17年前の南草津はまだ造成中でむき出しの土の山が電車から見渡せました。縁ありて昨春に引っ越してくると心地よい町で、ずいぶんと変わってきたと印象を受けました。この町でもっともたくさんの「好き」を発見したいと思います。
- 4年前に家を新築したときは戸建てかマンションか悩みました。庭の花いじりがしたくて戸建てに。でも便利なマンションもいいですね。
- 草津市もマンションが増え、それに伴って問題も起きてきています。対話がますます必要ですね。
- マンションに住む人の声がわかり本当に参考になりました。改めて人とのつながりの大切さに気づかされました。

「コミュニティくさつ」は、 みんなでつくる まちづくり情報誌です！

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議（3か月に1回程度）で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身のサークルや団体メンバーに本誌を配布してくれる人



● 申込み・問合せ ●

(公財)草津市コミュニティ事業団
コミュニティくさつ編集部(まちづくり振興課内)

ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

がんばった自分へのごほうび



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市費、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかなっています。